のり養殖通報第５報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議　　平成 23 年 11 月 20 日発行

[気象]気温は 18 日以降急降下。今後は冬型強まり寒気南下。

○ 気温は 11 月中旬に入りやや高め傾向が続いていたが，木枯らし一号が観測された 18 日以降急激に降下した（図 1）。

○ 気象予報によると，11 月終わりから 12 月上旬にかけては冬型が強まり強い寒気が南下すると予想されている。

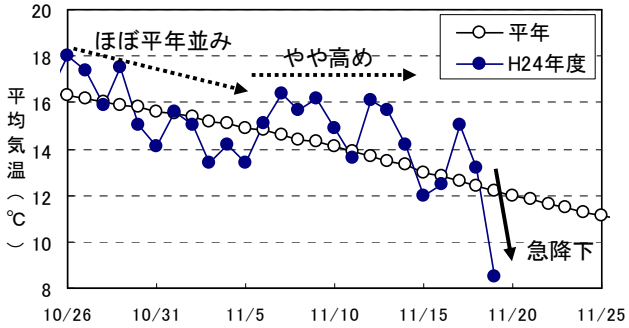

図1　日平均気温　平年との比較（千葉測候所）

[海況]水温は一段階降下。栄養塩類はほぼ十分

○ 黒潮の接岸傾向が続き，11 月 15 日頃には 19℃台の水温帯が富津岬以南のり漁場沖でも観測された。現在は黒潮の流軸はやや房総半島から離れ，のり漁場への暖水波及は弱まっている。

○ 新富津のり漁場における観測値では，水温は 11 月 5 日以降約 10 日間 18～19℃での停滞が続いていたが，北寄りの風が続いた 11 月 15 日頃からは順調に降下。現在は 17℃前後で経過している（図 2）。

○ 11 月 19～20 日に実施した東京湾の観測結果では表層水温はほぼ全域 16～17℃に低下。貧酸素水塊は解消したが，内湾中央部の底層には 18℃台のやや水温の高い水塊が観測されている。植物プランクトンは引き続き小型の珪藻類がやや多いが透明度は良好。栄養塩は湊ベタでやや減少したが，ほぼ十分な量が含まれている（右下表）。

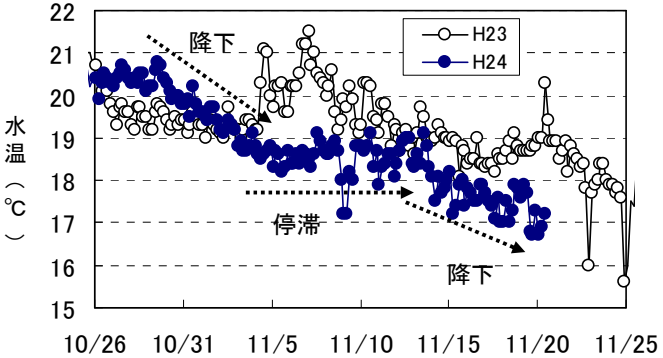

図2　昨年と今年の水温経過（新富津観測ブイ）

[今後の見込みと留意点]　冬型の強まりによる水温低下に期待

○ 各地区で収穫が開始されているが，漁場全域で伸び足がつくまでは至っていない。これは，周期的に吹いた南寄りの強風や暖水波及等の悪影響が原因と考えられる。

○ 今後は冬型の強まりに伴い表層水温の降下が続く見込み。鉛直混合も活発化し底層からの栄養塩補給も期待できる。漁場全体の伸長状況好転まであと一歩。

表 1　水質観測結果（内湾 11/19，内房 11/20）

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	15.7	31.2	8.2	4.0	522	49
盤洲Ｂブイ	16.4	31.4	8.3	4.2	390	36
盤洲Ａブイ	17.0	31.9	8.3	4.5	359	34
富津ベタ	16.6	31.7	8.3	3.8	323	31
2 海ほ下	17.2	32.4	8.3	7.4	242	27
下洲ベタ	17.2	32.8	8.3	7.0	227	26
大貫ベタ	16.7	32.9	8.3	5.6	175	22
湊ベタ	17.0	32.4	8.4	2.6	75	12

*溶存無機態窒素（μg/l）、**リン酸態リン（μg/l）

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードできます。
次回は 12 月 4 日頃発行します。